

第12分科会

(福島)



そば文化を`産業、に、日本一のそばの郷づくりへ挑戦

~人口4千人・観光客ゼロの山村に12万人の観光客が~

(有)會津きり屋
代表取締役

唐橋 宏氏

山都(やまと)町(現・喜多方市)は福島県の西部、山形県、新潟県の県境に位置する人口4千人の山村です。ここでは、観光客が農家の軒先に列を成す不思議な光景が見られます。自らそばを栽培して、粉をひく完全予約制の店「農家そば屋」です。その仕掛け人が唐橋さんです。昔から地元で祝い事の度に食ってきた「そば」という「文化」を「産業」として育て上げ、観光客ゼロの山村を年間12万人の観光客で賑わうまでに変貌させました。「日本一のそばの郷づくり」の実践から、地域活性化と同友会の果たす役割を考えます。

▶会社概要 設立:1971年 資本金:1000万円 年商:1億1千万円 従業員数:16名(内パート・アルバイト8名) 事業内容:飲食業(手打ちそば、会津料理) URL:http://www.kiriyasoba.co.jp

第13分科会

(愛知)



人が島をつくり島が人を育てる

~「想いの共有化、共生の精神」で仕事づくり島づくり~

(有)日間賀観光ホテル
代表取締役

中山 勝比古氏

漁業中心であった日間賀島(人口約2,200人)は、かつて「食えない島」として人口流出の苦難の時代がありました。しかし、地域住民が培ってきた「共生の精神」を島全体で共有し、本来、折り合いの悪い漁業者と観光客が「島のために」をキーワードに「協働」します。海苔の養殖から新たな仕事づくりが始まり、今ではタコの島、フグの島として人気を集める島となりました。観光カリスマにも選定された中山氏から、地域づくりの原点と産学官民の連携した最新事例から学びます。

▶会社概要 設立:1992年 資本金:1800万円 年商:6.8億円 従業員数:31名(内パート・アルバイト25名) 事業内容:旅館業、売店 URL:http://www.himakakankou-hotel.co.jp

IV. 経営と地域にかかわる政策課題

第14分科会

(中同協)



(株)DATEハキ
代表取締役

(株)アライ
代表取締役

守 和彦氏 新井俊雄氏

地域力経営とは何か—わが社の実践

○助言者 赤石義博・中同協相談役幹事・前会長

~中小企業憲章、中小企業振興基本条例の制定推進と企業革新を~

本分科会では、赤石氏の基調講演「地域力経営とは—幸せの見える社会づくりのために」を受けた徹底討論を行い、参加者各社の企業革新の課題と地域力経営のための具体的な展開を検討・交流する。実践事例として、冬の厳しい北海道でも快適な靴を開発するなど北国のライフスタイルにこだわったマーケティングを展開している守氏と、埼玉県南を基盤として地産地消にこだわった食材やオリジナルな酒類の委託開発等に取り組んでいる新井氏が報告。「地域力経営」を実践的に深めるための分科会。

▶会社概要 【(株)DATEハキ】設立:1941年 資本金:3500万円 年商:35億円 従業員数:45名(内パート・アルバイト15名) 事業内容:靴製造卸 URL:www.datehaki.co.jp
【(株)アライ】設立:1975年 資本金:1000万円 年商:23億円 従業員数:30名 事業内容:業務用酒類食材卸・小売(香味亭)・ギフト販売 URL:www.arainet.co.jp/

第15分科会

(青森)



農業問題の根本は何か、地域再生の視点から

~地方経済と第一次産業~

弘前大学農学生命科学部
教授

神田 健策氏

近年、中央と地方、都市と農村の格差が顕著になっています。特に、東北地域はその矛盾をまともに受け、商店街のシャッター通り化、人口の激減と高齢化、集落の崩壊など、地域社会の矛盾が広がっています。特に、わが国の農業基盤は食料自給率の低下、農業担手の不足など混迷を深めています。しかし、世界全体に目をやればわが国の異常さが目立ちます。温暖化、環境破壊、エネルギー問題などの将来方向を考える時、もう一度、第一次産業の果たしている役割を評価し直すことが必要だと思います。

V. 見学分科会

見学分科会に参加を希望される方は12月12日までにお申し込み下さい。
希望者多数の場合、人数調整をいたします。

第16分科会

(宮城)



生活者の声をとらえ、市場を創造し続けるソリューション企業

アイリスオーヤマ(株)
代表取締役

大山健太郎氏

プラスチック製造業として出発した当初から、本当のお客様は「生活者」であるとして、卸を介さず、小売店に直接お届けすることで「生活者」の声がダイレクトにフィードバックされ、「グローバル業態メーカーベンダー」として発展し続けるアイリスオーヤマ。住生活に潜む不満、要望を聞きだし、ソリューション(問題解決)提案し、需要を喚起し、年間1000アイテムの新商品を生み出しています。その原動力は、大山社長が提起する「ユーザーイン発想」に基づき、取り組む姿勢が全社に徹底しているからです。製造・ベンダー・小売までの一貫した仕組みを見学します。

▶会社概要 設立:1971年 資本金:1億円 年商:747億円 従業員数:2119名 事業内容:生活用品の企画、製造、販売 URL:http://www.irisohyama.co.jp/products/

第17分科会

(宮城)



企業風土と地域風土が生んだ“一ノ蔵”物語

~醸造文化の伝承と革新で6次産業づくり~

(株)一ノ蔵
代表取締役会長

櫻井 武寛氏

手づくりで高品質の酒づくりと醸造発酵技術を通じての地域活性化を目指して県内四軒の蔵元が一つになり1973年に誕生のち、東北を代表する企業として成長してきた。「生え抜き」杜氏の育成や当時の級別制度に一石を投じた「一ノ蔵無鑑査本醸造」の発売、日本酒の新たな可能性を追求した日本酒のシャンパン「すず音」の開発など醸造文化の伝承と革新に挑戦し続けている。「醸華邑構想 水田農業活性化特区」認証を受けての農業への取り組みや「日本酒大学」「一ノ蔵微生物林間学校」の開催などの運動の視点からも学ぶ。

▶会社概要 設立:1973年 資本金:1億5000万円 年商:30億円 従業員数:グループ160名(内パート・アルバイト20名) 事業内容:清酒製造業 URL:http://www.ichinokura.co.jp/

第18分科会

(宮城)

バネリスト



仙台フィンランド健康福祉センター
研究開発館副館長
吉村 洋氏

バネリスト



(株)ジェー・シー・アイ
代表取締役
佐藤 隆雄氏

コーディネーター



東北福祉大学
准教授
千葉 喜久也氏

仙台市とフィンランド国家との提携から福祉社会のあり方と企業の役割を考える

仙台市とフィンランド国家の国際共同プロジェクトとして、「仙台フィンランド健康福祉センター」は高齢者の自立、機能維持を実現する為、2005年に設立されました。フィンランドは「住み慣れた場所で自立して暮らせるようテクノロジーを駆使する」という魅力ある考え方やシステムで貴かれており、日本とほぼ同じ面積の国土に520万人の福祉国家を実現しています。センターでは仙台の企業とフィンランドの企業の共同開発、大学との共同研究開発を行っており、(株)ジェー・シー・アイはヴァイノ・コルピネン社とトイレ用補助手すりと洗面台の販売に係る業務提携を組んでいます。福祉社会のあり方、企業の役割、産学官の連携について考えます。

【(株)ジェー・シー・アイ会社概要】設立:1976年 資本金:8000万円 従業員数:131名 事業内容:車椅子、福祉用具の販売・レンタル、住宅改造
【吉村洋氏プロフィール】1946年生まれ。京都大学修士。2003年5月より、フィンランド健康福祉センタープロジェクトに参画し、現在仙台市産業振興事業団総括ビジネス開発ディレクター。
【千葉喜久也氏プロフィール】1951年生まれ。法政大学大学院社会科学部修士課程修了。1975年秋田県庁に入る。2000年東北福祉大学専任講師、2001年同大学助教授、現在に至る。